

2012年度 特別講演会

環境と哲学

～環境を巡る哲学の旅～

東日本大震災、とりわけ福島第一原子力発電所の事故は、およそ半世紀、国策として推進してきた原子力利用そのものの根底を揺り動かすと同時に、暮らしや産業、そして都市や地域のあり方を見つめ直さねばならない状況を、私たちに投げかけています。

都市計画に関わる者にとっては、復興計画やコミュニティのあり方、事業の展開などに、直接的・間接的に携わったり、関心を持ったりしています。加えて、原子力発電の安全対策や再稼働、そして今後のあり方を、市民の目線で注視する今であるといえます。

こうした中で、忘れてはならないのは、政治・経済、行政、市民の動きなど、行為・事象としての有り様だけでなく、そうしたことを根底で支えたり、方向づけたりする哲学の存在の有無、そしてその有り様についても注視し、考えることではないでしょうか。

日 時：2012年7月29日(日) 15:00～16:45

場 所：広島市まちづくり市民交流プラザ6階 マルチメディアスタジオ
広島市中区袋町6番36号 電話：(082)545-3911

講 師：山内廣隆 氏(広島大学大学院文学研究科教授 前文学研究科長・文学部長)
13:30～14:30 ごろまで、同会場で2012年度第2回幹事会を開催(その後特別講演会)

山内廣隆(やまうち ひろたか)氏 プロフィール

1949年生、広島大学大学院文学研究科博士課程後期単位取得退学(1982) 学位:博士(文学)
比治山女子高校教諭、比治山女子短大、比治山大学助教授を経て1996年4月広島大学文学部
助教授、1998年～1999年ミュンスター大学客員研究員、広島大学大学院文学研究科助教授
(2001)、同大学大学院文学研究科教授(2004)

ドイツ観念論全般にわたって研究しているが、これまでにヘーゲル哲学の形成過程をフィヒテ哲学との連関を通して明らかにした。他方、現代ドイツにおける応用倫理学の研究(特に環境倫理学)と、その日本への紹介を進めている。同時に伝統的ドイツ観念論研究が現代の応用倫理学研究にいかほどの貢献を成しうるかも探っている。現在、日本哲学会理事、広島哲学会理事長。

著書：「環境の倫理学」丸善(2003)「ヘーゲル哲学体系への胎動-フィヒテからヘーゲルへ-」ナカニシヤ出版(2003)他多数

訳書：マイヤー・アービヒ「自然との和解への道(上・下)」みすず書房(2005/2006)他多数



参加申込み

参加希望の方は、7月25日(水)までに、お名前、所属、連絡先を下記までご連絡ください。
公益社団法人日本都市計画学会中国四国支部事務局(株)地域計画工房内)

山下 和也(企画・研究委員会)

電話：(082)293-1460 FAX：(082)231-6866

E-mail：k-yamashita@chiikikb.co.jp

*****参加申込み票*****

お名前 _____

所 属 _____

連絡先：電話 _____

E-mail _____